

教職員の学校評価の結果 R7年7月 実施

<アンケートの考察>

- | | |
|-----------------|------------------|
| A 十分満足している・・・5 | B おおむね満足している・・・4 |
| C あまり満足できない・・・2 | D 努力を要する・・・1 |

で、計算し平均を算出。有効回答数 17 名（一部 16 名の質問あり）

☆ 平均が「4.5」以上の項目

- ・ 12 いじめ、不登校の未然防止、早期発見、早期対応の徹底している。
- ・ 17 HPや各種便りによる積極的な情報発信ができています。

12 アンケートや日頃の様子から、気になることを見付け、複数で対応し、未然防止に努めることができている。

17 協力・連携のためには、積極的に情報を発信し、理解を得ながら進んでいくことが大切である。各学年が週に1回を目安に、HPを作成し、充実してきた。今後も、情報を精査し、伝えたいことがしっかりと伝わるようにしていく。

★ 平均が「4.0」未満の項目

- ・ 3 学習規律の徹底を土台にし、基礎的学力の確実な定着ができています。
- ・ 4 人の思いを聴き、考え、優しい言葉遣いのできる児童が育っている。
- ・ 6 生活の中にある不合理に気付き、解決する力を児童は身に付けている。
- ・ 7 児童理解と全教職員の共通理解、および指導法を工夫している。
- ・ 9 進んで体力づくりに取り組む環境や指導の工夫をすることができたか。
(10月以降のITスタジアムへの参加)
- ・ 10 望ましい生活習慣の確立を働きかけたか。

3 基礎的学力の確実な定着を試みたが、大切な言葉や考え方を、自分の言葉で理解し、覚えるというところに困難な状況が見られた。授業でも四則計算ミスや初歩的な漢字ミスなど、土台の部分でつまづく児童が多かったため、22、27日の教員の会で対策を練る。

4 大部分の児童はできているが、言葉遣いの荒い児童に対し、根気よく指導する。

6 不思議に思ったことを、そのままにする児童が多い。教員も興味を持ち一緒に解決していく姿を見せていきたい。不合理に気付くことは大切。解決の手立てが、多様に存在すると伝えていきたい。言われて動ける素直さはあるが、目の前の課題に対し、自ら考え、動ける児童を育成したい。

7 教職員の大きな異動により、児童の顔と名前が一致していない状況があり、細やかな対応ができなかったことがある。情報の共有を確実に行っていく必要がある。

9 体育委員会中心に、運動したくなるポスターや学年別ランキングなど作っていきたい。しかし、暑すぎたため、時期は考えていきたい。

10 どの項目も個人差が大きい。家庭への協力を依頼していく必要がある。その方法についても検討していきたい。